

会報

◇奈良大学史学会総会

六月四日(月)、本学において、第三〇回奈良大学史学会総会を行った。

二〇一一年度の決算・会計監査報告及び事業報告が行われ、ついで二〇一二年年度の役員人事案・事業計画案とそれに伴う予算案が提案され、それぞれ原案どおり承認された。

二〇一二年年度の役員は以下の通り。

▽会長 青木 芳夫

▽副会長 下坂 守

▽教員委員

(編集) 足立 広明

(会計) 木下 光生

(庶務・交換) 森田 憲司

(監査) 寺崎 保広

小林 丈広

▽学生委員

(代表) 満尾 泰亮

(副代表) 野村 夏実

木村 孟

(青垣祭企画実行局長) 大橋由希子

(総務・広報局長) 池田 奈生

(四回生委員)

景山 美和 嘉島 暢彦

島川 美穂 清水 翔之

曾根 脩平 高田 洸平

土屋 清貴 中田 優香

(三回生委員)

濱田 京佳 木村 孟

小倉 拓澄 藤井 愛子

鈴木希由歌 藤井 愛子

(一回生委員)

山下 紗代 稲住 尚香

飯田 彩恵

大井美友紀

◇特別講義

六月四日(月)、史学会総会に引き続き、特別講義が行

われた。講師・演題は以下の通り。

南川高志氏（京都大学大学院教授）

「イギリスと古代ローマ帝国」

―歴史像はどう作られたか―

十二月三日（月）、特別講義が行われた。講師、演題は以下の通り。

海津一郎氏（和歌山大学教授）

「元寇。倭寇、朝鮮侵略、そして中世帝国日本」

◇青垣祭

本年度はテーマを「アメリカ自由への挑戦」とし、展示発表を行った。現在のアメリカ合衆国の建国からその後の発展の過程で起きた出来事を紹介し、現代とは違った一面を発見することで、歴史への関心を持ってもらおうと考えたからである。

会場ではヨーロッパ人が初めて北アメリカ大陸へ入植した頃から西部開拓終了までのパネルや資料、模型や地図などをを用い解説した。多くの方にご好評を頂き、青垣大賞制作委員会より立て看板とポスターは「美術賞」で第一位に

選ばれた。十一月一日（木）から十一月三日（土）の三日間で三五〇人以上の来場者が訪れた。

◇体験ツアー

今年の体験ツアーは、前期には六月十七日（日）に「東大寺・奈良国立博物館見学ツアー」を実施し、奈良公園周辺を学生委員の解説を交えて見学した。また後期には、十二月九日（日）に「二条城見学ツアー」を実施した。

◇「史学会会報」等の発行

奈良大学史学会の活動の普及を目的として、「史学会会報」を四月、五月、六月、七月、九月、十一月、十二月に発行し、史学会の企画案内や季節の話題等を掲載した。

また、本年度も一回生を対象に、来年度以降の講読・ゼミを決定する上での参考資料として、各ゼミに所属する学生の執筆による「講読紹介」を十二月に発行した。

◇着任

本年度四月に森川正則講師が着任した。日本近現代史のご担当である。

平成二十三年度史学科卒業論文題目

【日本史】

藤原四子政権について

上村賢太郎

—呪禁の内容について—
行基の布施屋について

橋本 健

後宮女官についての一考察

林 拓也

—武智麻呂と房前の関係性—

大嘗祭の諸問題

—氏女制度を中心に—

堀 真弥

光明皇后の政治的な役割

—踐祚儀との関係をめぐって—

村木 則仁

光仁・桓武朝の仏教政策について

—遷都の問題を中心に—

脇谷 哲郎

律令制下における海上輸送の一研究

国書携行問題について

律令国家における蝦夷の饗給について

三角 俊介

—庭園の洲浜意匠と洲浜台の比較—

律令国家における加賀郡榜示札木簡についての一考察

—自由任官問題の矛盾—

木原 雅美

—代表的施策にみる儒教精神—

—足利尊氏と足利直義の政治的抗争について

徳原 昭太

—自由任官問題の矛盾—

—中世高野山の盛衰

岩坪 豊

—自由任官問題の矛盾—

—中世の堺と寺社勢力

植垣 結衣

—自由任官問題の矛盾—

—保元・平治の乱の再検討

打越 理瑛

—自由任官問題の矛盾—

—源義経没落の要因

大西 佳貴

—自由任官問題の矛盾—

—自由任官問題の矛盾—

—自由任官問題の矛盾—

—自由任官問題の矛盾—

—自由任官問題の矛盾—

—自由任官問題の矛盾—

—自由任官問題の矛盾—

—自由任官問題の矛盾—

—自由任官問題の矛盾—

—自由任官問題の矛盾—

—自由任官問題の矛盾—

—自由任官問題の矛盾—

—自由任官問題の矛盾—

—自由任官問題の矛盾—

—自由任官問題の矛盾—

—自由任官問題の矛盾—

—自由任官問題の矛盾—

—自由任官問題の矛盾—

—自由任官問題の矛盾—

—自由任官問題の矛盾—

—自由任官問題の矛盾—

—自由任官問題の矛盾—

—自由任官問題の矛盾—

—自由任官問題の矛盾—

木曾義仲とその武士団の編成

小沢菜々子

筒井順慶についての考察

赤下部心吾

真田氏の領地経営の実態

織部 悠治

—生涯をかけた大和統一—

石橋 麻衣

壇ノ浦の戦いと平家滅亡

栢本明日香

近世の捨て子に関する考察

木原 由貴

院政期における武士の活動

久留美聡子

—京都の町を中心に—

井上 法子

—武士の発生から発達を体系論からみて—

中世社会と城郭

小林 由佳

—大崎合戦を中心に—

上田 直希

日本中世社会での犬

坂口みなみ

雑賀衆についての考察

佐藤龍太郎

中・近世における肥料としての尿尿

長瀬 航太

—城主の変遷とそれに伴う城下町の変化—

閑 亮太

鎌倉幕府に於ける土肥実平の立場

橋本 汐帆

関ヶ原合戦における戦後処理について

清水 将平

「みみらくの島」伝承

花形 裕

—西国への豊臣系大名の配置—

鈴木 遼太

武田氏の甲斐国支配体制

細川 勝

長篠合戦に関する考察

園田 昂太

室町將軍の日明外交

本間 晋介

—村上武吉を中心に—

竹田 龍介

佐々木六角氏の領国体制

宮内 隆幸

—兄弟の不仲からみる隆元の人物像—

恒川 義正

後醍醐天皇の倒幕運動

宮武 和弘

山科言継の駿河府中における生活について

大和における松永久秀についての考察

織田信長と室町幕府

大和 香穂

—松永久秀の大和支配—

絵画からみる中世の女性

尾崎美智子

—松永久秀の大和支配—

度々禁止された奈良の風流

田中 友広

—松永久秀の大和支配—

因幡国地頭佐治氏の研究

☆ ☆ ☆

中世民衆の生活についての一考察

中村 嘉志

高瀬船での船稼ぎと商人

岡田 祐輔

―民衆の戦争と為政者の政策―

―津山藩を起点とした吉井川水域での運輸―

元亀争乱についての考察

原田 雅也

花見に集う人々

片山 寅彦

―浅井長政はなぜ謀反を起こしたのか―

―近世京都を中心に―

蒙古襲来についての考察

藤田 有紀

近世社会における砂糖の消費実態

加藤 侑子

―異国征伐と石築地の関係性について―

伊勢参りの食文化

金子恵美奈

三木城合戦に関する考察

三田亜衣子

近世熊野の漁村と紀州藩

川上 美紀

―平井山合戦から三木城落城まで―

下尿からみる摂河農村の肥料実態

越堂ゆきみ

小早川隆景についての考察

三藤 浩平

大坂両替商の社会貢献

中川 洋平

―隆景と隆元の仲を視点に―

近世石見銀山における組織と労働

西川 英佑

大友宗麟 日向進出についての考察

矢羽田健太郎

近世大坂の都市交通の発展における運輸業の動向

英 優美

天正九年鳥取城渴え殺しに関する考察

山本 早紀

豊文化の基礎的研究

濱崎 直彦

―毛利・織田両軍の行動を追って―

―生産・流通と消費文化―

甲斐国武田氏、家督相続についての考察

湯浅 友貴

旅人に対する近世枚方宿での対応

藤木 美季

☆ ☆ ☆

新参者からみた近世京都の自治

足立 賢亮

暦と近世民衆

堀 優

ペットからみる近世の動物観

池宮 科

江戸の水茶屋

森田貴久子

コレラと民俗

今岡 翼

近世鳥取における賤民の実態

山根 万歩

人々と囲碁の関係

宇山 隼平

芝村藩の預かり地政策

吉本 潤

「かぶさき者」とその弾圧背景

岡田 侑子

近世京都における町の形成と遊里との相関関係

北野 哲平

戦争と美術

手島 理絵

☆ ☆ ☆

近現代における日韓関係について

今橋 智樹

―戦前・中・後期における「戦争記録画」の評価―
和宮・水戸浪士の信濃路通行からみる幕末の政局

中村 智幸

―相互認識を中心に―

新選組と土方歳三

小柳 勇人

奈良県の教育の歴史

西 裕毅

岩倉使節団について

越谷 悟

―学制公布以降の小学教育を中心に―
現代日本における女性の役割の変遷

能勢真理子

―使節団編成過程の考察―

鳥羽伏見の戦い

小西 健太

―歴史学的視点からの考察―
日露戦争と世論

東山 純

―旧幕府軍・会津藩を中心に―

集団自決と日本軍

阪本 大輔

―大阪朝日新聞を見て―
栗林忠道と硫黄島

藤縄 俊成

特別攻撃隊の登場から解体まで

菅野 正大

石橋湛山

舟木 絵梨

山本五十六と真珠湾攻撃

杉本 拓朗

―第二次世界大戦期を中心に―
ジャーナリズムから見る足尾銅山鉍毒事件

前田 将司

―山本の作戦構想を中心に―

吉田松陰と奇兵隊構想

宗田 晃一

―新聞記事が与えた役割を中心に―
戊辰戦争について

森田 舞

沖繩での地上戦

棚田 恵美

―津藩の動きを中心に―
原子爆弾投下の被爆者への影響

山際 大介

―民間人と、日本軍アメリカ軍の関係性について―

戦争文学からみる少国民世代の損失

常包 春花

―被爆者援護法を中心に―

―青春期における学生生活とのかかわり―

韓国併合をめぐる

山崎 友希

北京の食肉

小川 徹

—伊藤博文の韓国統治評価の再検証—

—民国三〇年前後の肉取引—

琵琶湖疏水とジャーナリズム

渡邊望奈代

義和団の宗教について

田中 和輝

鈴木貫太郎内閣と終戦

谷岡 直人

一三世紀から一四世紀のペルシア湾における海上交易について

若井 輝正

—昭和天皇と陸海軍部大臣の動向を中心に—

陸軍軍縮と姫路第十師団の問題について

竹田 和憲

大久保利通の人物像

田村 敦司

【西洋史】

幕末・明治初期の幕臣たちについて

古賀 希望

キリスト教宗教画とマニエリスムの身体表現

有村 悠

ポンパドゥール夫人と18世紀フランス社会

船本 裕子

【東洋史】

楚漢戦争における項羽の敗因

板井 貴裕

—絶対王政下の美術・芸術庇護について—

兼八 洋介

隋文帝の経済政策について

小田 真弓

—その社会的影響についての一考察—

近藤 由

—均田制を中心に—

先秦時代における音楽理論と政治

北西 央志

—政治の介入と祭儀の変容—

椎貝 達也

後漢時代の地方における貨幣経済について

前田 浩邦

中世イタリア商人と地中海世界

鈴木 悠太

—政治と社会から見た蜀—

☆ ☆ ☆

山本 康介

—ヴェネツィアを中心として—

鈴木 沙貴

太宗から則天武后へ

藤原 愛弓

—その受容と変遷過程を追って—

高橋 静菜

—周辺官僚を通して—

古代ギリシアの女性とポリス社会の確立

寺井絵理香

—古代に生きる女性達—

中立政策

出丸健一郎

ジャヌメーエ世とアラゴン王国

中村 美穂

キューバ危機

鳥居 大輝

—13世紀イベリア半島におけるレコンキスタ—

—キューバ危機発生と回避の再検討—

ヘロドトス

中村 梨野

山崎 雄貴

—その歴史叙述と「キュクロス観」—

—一九世紀ドイツにおける少数民族問題

稲土 美穂

ローマの庶民と日常生活

畠中 俊弥

—一九世紀イギリスの女性たちの旅

井上悠里亜

—イギリスの警察に関する一考察

西洋中世の騎士とその社会

平田 弥里

岩谷 隼人

—騎士階級の成立とその理想—

—一九世紀末のウィーン文化

江坂のぞみ

第一回十字軍—教皇と諸侯の関係を中心に

藤井 甫

—都市とユダヤ人—

—社会情勢のなかでみるキリスト教社会の解放—

吉次 聡子

マヤ暦について

桶谷 真史

ヒクソス侵入とエジプト社会の変容

吉次 聡子

マチュピチュと水

加藤 彩

—第二中間期の再検討—

—ポスニア独立紛争とアメリカ

仲田 拓哉

ギリシア神話における女性イメージと家父長制

若見 静香

—大国の介入から見える社会主義圏崩壊後の欧米関係—

シャルトル大聖堂とゴシック建築

渡邊 尚子

西岡 梢

十五世紀フイレンツェの絵画と工房

光富 貴史

—イギリスにおけるエリート教育と民衆教育について

☆ ☆ ☆

樋口 知也

☆ ☆ ☆

樋口 知也

ヴィクトリア時代における娯楽

日用 皓子

ヴェトナム戦争における世論とその背景

森田 将也

— 伝統的娯楽の衰退と合理的娯楽運動の高まり —

スコットランドのダービーマッチと宗教対立 藤本 健一

ナチス政権下の日常生活 宝積 優樹

カリブ海域における黒人奴隷制の歴史について

— ジャマイカの事例をもとに — 山本 佑馬

雑誌

Annales des Etudes de la Révolution Française et la

Collection des documents de Michel Bernstein 2011

平成二十三年度文学研究科修士論文題目 (史学関係)

NUR (成城大学フランス語フランス文化研究会) 第一三三号

愛大史学—日本史・アジア史・地理学— (愛知大学文学部
人文社会科学) 第二〇、二二号

朝鮮出兵前後から鎖国成立までの海域勢力の琉球認識

北島 朋子

愛知大学総合郷土研究所紀要 (愛知大学) 第五七輯

『延喜式』の御贄に関する一考察 齋藤美悠紀

近江分郡守護に関する一考察 酒井 雅規

愛知大学文学論叢 (愛知大学文学会) 第一四五、一四六号

ドイツの歴史認識と国際教科書会議 柴田 実穂

南北朝・室町期における陰陽家及び陰陽師の動向 細田 慈人

青山史学 (青山学院大学文学部史学研究室) 第三〇号

称徳天皇の「法王」観 松川 夏生

藤原京成立に関する一考察 松本 寛之

アカデミア 社会科学編 (南山大学) 新編第三号

律令制下における相嘗祭について 村山 巴紀

アカデミア 人文・自然科学編 (南山大学) 新編第四号

秋田県公文書館研究紀要 第一八号

アジア学科年報 (追手門学院大学国際教養学部アジア学科)
第五号

アジア研究所紀要 (亜細亜大学アジア研究所) 第三八号

アジア史学論集 (京都大学大学院人間・環境学研究科) 松

浦茂研究室) 第五号

岩手史学研究(岩手史学会) 第九三号

エウローパー(成城大学大学院文学研究科ヨーロッパ文化

専攻) 第一九号

鷹陵史学(鷹陵史学会) 第三八号

大分県立歴史博物館研究紀要 第一三号

大谷大学史学論究(大谷大学文学部歴史学科) 第一七号

お茶の水史学(お茶の水大学読史会) 第五五号

海南史学(高知海南史学会) 第五〇号

学習院大学史料館紀要 第一八号

神奈川大学国際常民文化研究機構年報 第二号

漢学研究通訊(漢学研究センター) 第三十卷第三、四期、第三

十一卷第一、三期

京都女子大学大学院文学研究科研究紀要 史学編 第一一

号

京都橘大学研究紀要 第三八号

キリスト教史学(キリスト教史学会) 第六六集

研究論集(河合文化教育研究所) 第九号

元史及北方民族与边疆研究(南京大学元史研究室) 第二三

輯

神戸大学史学年報(神戸大学史学研究会) 第二七号

国際日本学(法政大学国際日本学研究所) 第九号

国士館史学(国士館大学日本史学会) 第一六号

国史研究(弘前大学国史研究会) 第一三一、一三二、一三

三号

国史談話会雑誌(東北大学国史談話会) 第五二号

堺研究(堺市立中央図書館) 第三三、三四号

史苑(立教大学史学会) 第七二卷第一号、二号

史学(三田史学会) 第八十卷四号

史学研究集録(国学院大学大学院史学専攻大学院会) 第三

七号

史観(早稲田大学史学会) 第一六六号

史聚(史聚会) 第四五号

史人(広島大学大学院教育学研究科下向井研究室) 第四号

史泉(関西大学史学・地理学会) 第一一五号、一一六号

史艸(日本女子大学史学研究会) 第五二二号

史叢(日本大学史学会) 第八五号

市大日本史(大阪市立大学日本史学会) 第一五号

史友(青山学院大学史学会) 第四四号

就実大学史学論叢(就実大学総合歴史学科) 第二六号

- 秋大史学（秋田大学史学会） 第五八号
- 上智史学（上智大学史学会） 第五六号
- 湘南史学（東海大学大学院日本史学会） 第二一号
- 資料館紀要（京都府立総合資料館） 第四〇号
- 神女大史学（神戸女子大学史学会） 第二八号
- 信大史学（信大史学会） 第三六号
- 人文学報（東京都立大学人文学部） 歴史学編第四〇号
- スペイン史研究（スペイン史学会） 第二五号
- 住友史料館報 第四三三号
- 西洋史学報（広島西洋史学研究会） 第三九号
- 西洋史論叢（早稲田大学西洋史研究会） 第三三三号
- 専修史学（専修大学歴史学会） 第五一号
- 専修大学史紀要（専修大学大学史資料課） 第四号
- 双文（群馬県立文書館） 第二九号
- 台湾師大歴史学報（国立台湾師範大学歴史学系） 第四五期
- 但馬国国府国分寺館年報 第六号
- 地域研究いたみ（伊丹市立博物館） 第四一号
- 近松研究所紀要（園田学園女子大学近松研究所） 第二二号
- 千葉史学（千葉歴史学会） 第五九、六〇号
- 津田塾大学国際関係研究所報 第四六号
- 敦賀論叢（敦賀短期大学） 第二六号
- 帝京史学（帝京大学文学部史学科） 第二七号
- 帝塚山大学大学院人文科学研究科紀要 第一四号
- 東海史学（東海大学史学会） 第四六号
- 東京大学日本史学研究室紀要（東京大学大学院人文社会系
研究科・文学部日本史学研究室） 第一六号
- 唐宋変革研究通訊（渡辺信一郎） 第三輯
- 東洋史苑（龍谷大学東洋史学研究会） 第七八号
- 東洋大学文学部紀要 史学科篇（東洋大学） 第三七号
- 東洋文化研究（学習院大学東洋文化研究所） 第一四号
- 徳川林政史研究所研究紀要（財団法人徳川黎明会） 第四六
号
- 飛ノ台史跡公園博物館紀要 第九号
- 長野県立歴史館研究紀要 第一八号
- 七隈史学（福岡大学人文学部歴史学科七隈史学会） 第一四
号
- 奈良学研究（帝塚山大学奈良学総合文化研究所） 第一四号
- 寧楽史苑（奈良女子大学史学会） 第五七号
- 奈良歴史研究（奈良歴史研究会） 第七七、七八号
- 鳴門史学（鳴門史学会） 第二五号

新潟史学（新潟史学会）第六六、六七号

二松（二松学舎大学大学院文学研究科）第二六集

二松学舎大学大学論集（二松学舎大学文学部）第五五号

二松学舎大学東アジア学術総合研究所集刊 第四二集

日本研究（国際日本文化研究センター）第四四、四五集

日本思想史研究（東北大学大学院文学研究科日本思想史学

研究室）第四三号

日本史の方法（奈良女子大学日本史の方法研究会）第九

号

日本常民文化紀要（成城大学大学院文学研究科）第二九号

日本文化史研究（帝塚山大学奈良学総合文化研究所）第四

三号

日本モンゴル学会紀要（日本モンゴル学会）第四二号

年報近現代史研究（名古屋大学近現代史研究会）第四号

年報中世史研究（中世史研究会）第三七号

年報非文字資料研究（神奈川大学日本常民文化研究所非文

字資料研究センター）第八号

白山史学（東洋大学白山史学会）第四八号

パブリック・ヒストリー（大阪大学西洋史学研究室）第九

号

東アジア研究（大阪経済法科大学アジア研究所）第五六、

五七号

東アジア世界史研究センター年報（専修大学社会知性開発

研究センター）第六号

広島東洋史学報（広島東洋史学研究会）第一五・六号

福岡教育大学紀要（福岡教育大学）第六一号第二分冊社会

科編

佛教学部論集（佛教学部）第九六号

佛教学部総合研究所紀要 第一九号

文学部論集（佛教学部）第九六号

法政史学（法政大学史学会）第七六、七七号

北陸史学（北陸史学会）第五四〇五八号

三重大史学（三重大学人文学部考古学・日本史・東洋史研

究室）第一二号

御影史学論集（御影史学研究会）第三七号

三井文庫論叢（公益財団法人三井文庫）第四五号

宮城県多賀城跡調査研究所年報 二〇一一

民具マンスリー（神奈川大学日本常民文化研究所）第四四

巻第七〇一二号、第四五巻第一〇六号

メトロポリタン史学（メトロポリタン史学会）第七号

山口県史研究（山口県史編さん室）第二〇号

ヨーロッパ文化史研究（東北学院大学ヨーロッパ文化研究所、大学院文学研究科ヨーロッパ文化史専攻）第一三三号

洛北史学（洛北史学会）第一四号

立教史学（立教大学大学院文学研究科史学研究室）第三号

立正史学（立正大学史学会）第一一〇、一一一号

龍谷史壇（龍谷大学史学会）第一三四号

歴史（東北史学会）第一一七、一一八輯

歴史遺産研究（東北芸術工科大学歴史遺産学科）第七号

歴史学部論集（佛教大学歴史学部）第二号

歴史研究（愛知教育大学歴史学会）第五八号

歴史研究（大阪教育大学歴史学研究室）第四九号

歴史人類（筑波大学大学院人文社会科学部歴史・人類学専攻）第四〇号

歴史と地理（山川出版社）第六四七号～六五八号

和菓子（虎屋文庫）第一九号

図書

明石の古墳（発掘された明石の歴史展実行委員会、明石市教育委員会）

伊勢湾岸地震履歴の総合的研究（三重大学人文学部）

置賜地域の終末期古墳五（東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター）

学習院大学東洋文化研究所蔵資料紹介―末松保和資料

（学習院大学東洋文化研究所調査研究報告五六）

菓子木型―和のかたち（岡山市デジタルミュージアム）

観光地の描き方―浮世絵版画から観光パンフレットまで

（平成二三年度長野県立歴史館秋季企画展）

岐阜大学教育学部郷土博物館収蔵目録（四）未報告資料・博物館関係資料目録（岐阜大学地域学部地域資料・情報

センター）

郷土玩具 奥村寛純コレクション―伏見人形（高槻市文化財調査報告書第二九冊）

財調査報告書第二九冊）

国指定史跡那須官衙遺跡周辺詳細調査報告書1（栃木県那珂川町教育委員会）

軍人の如楓 文人の如楓（上郡町郷土資料館）

群馬県立文書館収蔵文書目録三〇 佐波郡境町東福島英一家文書利根郡新治村新治村布施区有文書（群馬県立文書館）

館）

甲府城下町遺跡（丸の内二丁目一〇九地点）（山梨文化財

研究所)

駒澤大学禅文化歴史博物館所蔵版木資料一『正法眼蔵辨註』(駒澤大学禅文化歴史博物館)

佐島の民俗―神奈川県横須賀市佐島(安室知編 神奈川大

学歴史調査報告一三集)

佐竹北家文書・佐竹西家文書目録(秋田藩関係文書Ⅲ 秋

田県公文書館)

里海の自然と生活Ⅱ 印南敏秀編(みずのわ出版)

四国遍路と世界の巡礼 プロシーディングズ 二〇〇九)

二〇一一年度(愛媛大学)四国遍路と世界の巡礼」研究会)

社会最下層に対する比較史的考察 第一一回日韓・韓日歴

史家会議報告書(日韓文化交流基金)

収蔵品目録 考古(大分県立歴史博物館)

珠玉の荘園「新見の庄」(新見庄ロマンの里づくり実行委

員会編集)

多賀城跡木簡Ⅰ(宮城県多賀城跡調査研究所資料Ⅱ)

地域で活躍する女性たち(愛知大学総合郷土研究所シンポ

ジウム報告集)

塚本遺跡(甲府市文化財調査報告五五)(山梨文化財研究所)

月布川流域における縄文時代遺跡の研究Ⅰ(東北芸術工科

大学考古学研究報告第一二冊)

トゥラン主義とその時代 浜由樹子著(津田塾大学国際関
係研究所)

土佐国群書類従完結記念講演『土佐の歴史をもっと知りた

い』(高知県立図書館)

那須と白河―接圏の地 東山道、そして関(栃木県なす風

土記の丘資料館平成二十三年度第十九回企画展)

那須の縄文社会が変わるころ―縄文時代中期から後期へ栃

木県なす風土記の丘資料館平成二十四年度第二十回企画

展)

南部アフリカ鉱山労働者の経験からみるアフリカ人の間の

差異化・差別化の起源 網中昭世著(津田塾大学国際関

係研究所)

日本のアイデンティティー形成と反響(法政大学国際日本

学研究所)

日本の財政学を築いた薩摩藩士 専修大学創立者・田尻稲

次郎の生涯(鹿児島県歴史資料センター黎明館、専修大

学)

祢布ヶ森遺跡第40・41次発掘調査報告書(豊岡市教育委員

会・但馬国国府国分寺館)

遙かなる衣ヶ浦のみなど―海運と産業の歴史（碧南市教育

委員会）

阪神・淡路大震災 伊丹からの発信 本部編、手引・資料

編（伊丹市立博物館）

肥後国浄水寺古碑群（熊本県豊野町教育委員会）

肥後国浄水寺古碑群Ⅱ（熊本県宇土市教育委員会）

福島第一原発誤報道資料集（研究代表者 小路田泰直）

豊後国山香郷3 国東半島荘園村落遺跡詳細分布調査概報

（大分県立歴史博物館）

穂国のコモンズ豊川 松倉源造著（愛知大学総合郷土研究

所ブックレット）

都城島津家役所日記（都城島津伝承館史料集第一号 都城

島津邸）

瑠璃浄土―薬師如来へのいのり（大分県立歴史博物館）

歴史遺産を未来に 平川新・佐藤大介編（東北大学東北ア

ジア研究センター）

『奈良史学』第一号〜第三〇号総目次

■第一号（一九八三年十二月）

発刊の辞

論考 道照伝考

近代京都における町自治について

カール大帝の農業政策

書評 蕭啓慶著『元代史新探』を読む

―元代の士大夫の問題をめぐって―

■第二号（一九八四年十二月）

論考 信濃国の守護と国人の城下

慶長・元和期における政治と民衆

―「かぶき」の世相を素材として―

一九二〇年代における地主小作関係の一考察

―奈良県旧添上郡治道村の事例―

網法成立にむけて

―嘉靖・万暦期における積引問題―

書評

Hans von Herwarth, Zwischen Hitler und Stalin,

Erlebte Zeitgeschichte 1931-1945

菅野 正

水野柳太郎

山田 敦子

堀内 一徳

森田 憲司

松山 宏

鎌田 道隆

森元 文子

森 紀子

松川 克彦

■第三号（一九八五年十二月）

論考 東大寺の柚経宮と西塔の修造

辻本 弘明

特別寄稿 十九世紀末中国維新運動与日本

ペルーの二重言語教育の二類型

青木 芳夫

―天徳3年の太政官牒と官符をめぐって―

武智麻呂と房前

辻 克美

王 暁秋著、菅野 正訳

五四前夜の日中軍事協定反対運動

菅野 正

■第六号（一九八八年十二月）

史料紹介 ノジャンのギベールの回想録（1）

守山 記生

論考 大坂観の近世的展開

鎌田 道隆

―中世都市ランのコミュニケーション運動―

徳川和子の入内と藤堂高虎

久保 文武

■第四号（一九八六年十二月）

論考 石井・ランシング協定の前提

明石 岩雄

藤原不比等の功封について

河内佐智子

日中軍事協定の廃棄について

菅野 正

史料紹介 小野川文庫漢籍目録稿

東洋史研究室編

史料紹介 ノジャンのギベールの回想録（2）

守山 記生

■第七号（一九八九年十二月）

―中世都市ランのコミュニケーション運動―

インムニテート

堀内 一徳

談話記録 西北研究所の想い出

藤枝 晃述、

論考 鎌倉時代の守護所

松山 宏

原山 煌・森田憲司編注

大頭入衆日記考

朝倉 弘

―藤枝晃博士談話記録―

清代の北京における菓子屋ギルド及び

点心舗について

尾上 葉子

■第五号（一九八七年十二月）

論考 石川年足と山田寺

堀池 春峰

造幣人 (monetarius) と七世紀フランク王国の

貨幣経済

堀内 一徳

聖武天皇勅書銅板と東大寺

鈴木 景二

書評 陳垣編、陳智超・曾慶瑛校補『道家金石略』

森田 憲司

(一九九二年十二月)

■第八号（一九九〇年十二月）

論考 義和団運動後の福建と日本

菅野 正

十五世紀後期におけるグラム司教座聖堂

鎌田 道隆

付属修道院のワインの調達と市場

森本 轟

東海道日岡峠における木食正禪の道路改修事業

森田 憲司

安田真紀子

■第九号（一九九一年十二月）

論考 日本靈異記上巻第五話と日本書紀

水野柳太郎

唐代州刺史研究

長部 悦弘

—京官との関連—

—ベル・クスコ地方を中心に—

青木 芳夫、

西欧七世紀後半における領域的諸侯領の形成

アンヘリカ・パロミーノ 青木

堀内 一徳

日中戦争論ノート

明石 岩雄

紹介 松山宏著『中世城下町の研究』

朝倉 弘

論考 山門公人の歴史的性格

下坂 守

—『祇園執行日記』の記事を中心に—

■第一〇号—奈良大学史学会十周年記念号—

論考 紫微中臺と坤宮官

水野柳太郎

中世都市の条件について

松山 宏

—不確な諸例—

初期幕政における二元政治論序説

鎌田 道隆

『廟学典礼』成立考

森田 憲司

林維源の福建勸業銀行設立計画をめぐって

菅野 正

十二世紀初期のフランドルにおける政変と

エランバルド一族

守山 記生

中世前期における騎士の戦術と武装

堀内 一徳

ケチュア語のなぞなぞ

京都改造

鎌田 道隆

―ひとつの豊臣政権論―

一九〇〇年春、後藤新平長官の福建訪問について

菅野 正

マテオ・ガルシア・プマカウアの軌跡

真鍋 周三

―植民地時代末期ペルー社会の考察―

■第一二号（一九九四年十二月）

論考

日本軍の中国中南部侵略

明石 岩雄

―呂集団作戦について 日中戦争論ノート その二―

「大朝崇褒祖廟之記」再考

森田 憲司

―丁酉年における「聖人の家」への優免―

ケチュア語のことわざ

―ペルー・クスコ地方を中心に― 青木 芳夫、

アンヘリカ・パロミーノ青木

アヴァール人とハンガリー人

堀内 一徳

■第一三号―松山宏先生退職記念号―（一九九五年十二月）

松山宏先生年譜・論文目録

論考 奈良時代の太上天皇と天皇

水野柳太郎

中世熱田社の権宮司家

藤本 元啓

日本中世における身体技法について

横出 洋二

織豊系城郭以前

多田 暢久

奈良奉行川路聖謨の民政

鎌田 道隆

大阪博覧会（一九〇三年）と中国

菅野 正

西ヨーロッパ中世都市の形成

守山 記生

批評と紹介 水野柳太郎著『日本古代の寺院と史料』

渡辺 晃宏

■第一四号―堀内一徳先生退職記念号―

（一九九六年十二月）

堀内一徳先生年譜・論文目録

論考 一九二〇年代日中関係における「大蔵外交」の展開

―駐華大蔵財務官公森太郎の記録から―

明石 岩雄

近世都市における都市開発

鎌田 道隆

―宝永五年京都大火後の新地形成をめぐって―

「割閩換遼」要求風説と湖南・禹之謨

菅野 正

オゴルマン『アメリカの発明』と現在 青木 芳夫

書評 守山記生『北フランス・ベルギー中世都市研究』

鯖田 豊之

幕末期における情報化社会の成立とその展開

—石清水八幡宮社士・河原崎家の事例を手がかりにして—

坂東 俊彦

■第一五号（一九九七年十二月）

論考 中世前期の城下空間

松山 宏

十津川村・中利助日記抄

若林喜三郎

大和国司興福寺考 二二

朝倉 弘

戊戌維新期の上海亜細亜協会をめぐって

菅野 正

—春日若宮おん祭の創始

『日本書紀』白雉四年の遣唐使記事について

南 友博

—日系ブラジル人の事例を通して—

石田 信義

清末の中央官制改革について

永野 勝章

■第一七号（一九九九年十二月）

ポリス社会におけるプライバシー イニシアティヴ

論考 町触と町規制にみる近世京都の借家人問題

—J・ハンターとD・コーエンの議論をめぐる覚書

北村（栗原）麻子

鎌田 道隆

近世京都における町会所の役割
碑記の撰述から見た宋元交替期の
慶元における士大夫

森田 憲司

■第一六号（一九九八年十二月）
論考 南北朝・室町期における五山派禅院の修造財源

—將軍権力と関連して—
辻 直生

近世からくり玩具の史料研究
安田真紀子

—拳玉・御来迎・ずぼんば・猫と鼠—

近世京都の観光都市化論
鎌田 道隆

イギリス首都警察改革再考
—一八二九年法施行の背景—
林田 敏子

■第一八号—水野柳太郎先生退職記念号—

(二〇〇〇年十二月)

史料 『奈良名所子供案内』

大学院近世奈良地誌研究グループ

水野柳太郎先生年譜・著作目録

論考 式部曹司庁の成立

寺崎 保広

阿弥陀浄土院と光明子追善事業

渡辺 晃宏

古代建築部材の墨書と近世の俗信

鈴木 景二

歴史遺産の復元

鎌田 道隆

—江戸時代のからくり玩具—

資料紹介 「ペルー・ボリビア二重言語」異文化間教育

—教科書に見る—展について 青木 芳夫

書評 鎌田道隆著『近世京都の都市と民衆』 坂本 博司

—和刻本事林広記から見たモンゴル支配下中国の

出版—

■第一九号(二〇〇一年十二月)

論考 宇多院宣旨について 竹田 紀衣

『続日本紀』における叙位の欠落について 西本 英夫

曲阜地域の元代石刻群をめぐって 森田 憲司

一一二七～二八年のフランドルにおける政変と

フランス国王の対応 守山 記生

■第二〇号—奈良大学史学会二〇周年記念号—

(二〇〇二年十二月)

論考 「云集の日」小考

寺崎 保広

—武官の衣服と儀式

阿波国名方郡条里の復元について 丸山 幸彦

—幕末・明治維新期の在村研究者の論にもとづく—

奈良奉行川路聖謨の植樹活動について 鎌田 道隆

王朝交代と出版 森田 憲司

日露戦争後、満州還付めぐって 菅野 正

アルケデモスの訴訟活動をめぐって(Xen. Men. X.9)

栗原 麻子

ペルー・アンデスの口頭伝承 青木 芳夫

—十字架

オータン司教レウデガリウス

(六六三―六七八)の錯覚

杉浦 武仁

―七世紀後半の司教による都市支配再検討―

奈良史学総目次(第一号―第二〇号)

■第二二号―藤井學先生退職記念号―(二〇〇三年十二月)

藤井學先生年譜・著作目録

論考 中世的郡郷制の成立と展開

丸山 幸彦

―阿波国吉野川下流域の場合―

朝廷の存続と天皇の下賜

北堀 光信

―村井貞勝と前田玄以への下賜の成立と意義―

大阪府・岡山県行政と住民運動

阿部 紀子

―第三区外島保養院移転反対運動―

文献と実物資料

森田 憲司

―『故紙堆』(北京図書館出版社 二〇〇三)の

紹介を通して―

古代エジプトにおいて墓地管理は

どのようなであったか?

西村 洋子

資料紹介 ケチュア語への招待

青木 芳夫

アンヘリカ・パロミーノ青木

■第二二号―菅野正先生退職記念号―(二〇〇四年十二月)

菅野正先生年譜・著作目録

論考

元代類書における『文公家禮』の引用 森田 憲司

―至元八年婚姻礼制所引を中心に―

糖餅行のギルドホール馬神廟と祭神 尾上 葉子

一九世紀前半ベルリンにおける市民層と市の名譽職

北村 昌史

史料紹介 奈良大学史学科所蔵『柳町村文書』の

紹介と目録

大木祥太郎

『江西通志稿』

明石 岩雄

■第二三号(二〇〇五年十二月)

論考 上祇麻呂状と奈良時代の官人社会

馬場 基

日本古代の喪葬儀礼に関する一考察

三上真由子

―奈良時代における天皇の殯期間の短期化について―

近世の旅観と街道の変容 安田真紀子

―参宮と大和めぐり―

漢文景期小考

角谷 常子

書評 Peter Brown, Authority and the Sacred: Aspects

of the Christianization of the Roman World,
Cambridge, Cambridge University Press, 1995.

足立 広明

■第二四号—守山記生先生退職記念号—

(二〇〇六年十二月)

守山記生先生年譜・著作目録

論考

史料としての回想録

嶋中 博章

—レ板機卿の叙述をめぐって—

クール司教テツロの寄進文書

杉浦 武仁

系譜史料としての新出土墓誌

森田 憲司

—臨海出土墓誌群を材料として—

四国山地における蜂須賀氏入部反対運動

丸山 幸彦

尾藤二洲の思想世界

清水 教好

—明末清初思想と武家社会の朱子学のはざま—

桓武朝における「国忌」についての一考察

利行 榎美

■第二五号 (二〇〇七年十二月)

論考

江戸時代の南都奉行所と法隆寺

鎌田 道隆

大阪愛珠幼稚園・北野中学校を參觀した清国人

菅野 正

ヴィクトリア中期のイギリスにおける

「登山」の創出

久保利永子

プトレマイオス朝エジプトにおける在地社会の変容

—エドフの事例を中心に—

石田 真衣

■第二六号—明石岩雄先生退職記念号—

(二〇〇八年十二月)

明石岩雄先生年譜・著作目録

論考

いわゆる光明立后の詔について

水野柳太郎

後漢時代における為政者による顕彰

角谷 常子

ケチュア語の社会文化的考察

パロミーノ＝青木アンヘリカ

近世京都における寺檀関係の一考察

林 宏俊

—居住地の移動と寺替えを中心に—

分国密懷法に関する一考察

佐藤くるみ

史料 安政末年伊勢参宮道中記

鎌田 道隆

■第二七号―丸山幸彦先生退職記念号―

(二〇〇九年十二月)

丸山幸彦先生年譜・著作目録

論考

中世「四条河原」考

下坂 守

―描かれた「四てうのおおや」をめぐる―

近世的旅観の形成

鎌田 道隆

―伊勢参りの旅

前漢の御史大夫小考

米田 健志

―『史記』三王世家と元康五年詔書冊の解釈に関して―

正倉院文書にみる継目裏書

北條 朝彦

―志斐麻呂の場合―

「毀位記」に関する基礎的考察

高橋 周

■第二八号(二〇一〇年十二月)

論考

明治六年政変と大久保利通

佐々木 克

近世大和観光における案内人の史的研究

安田真紀子

清代台湾鳳山県に於ける漢人と原住民の關係

森島 雅治

―柯志明氏の「三層族群論」からの展開―

古代エジプトの勅令に見る罪の重さに対する意識

西村 洋子

藤原頼道と「親々」

木本 久子

律令国家の用水政策について

岩田 展世

■第二九号

―鎌田道隆先生・佐々木克先生退職記念号―

(二〇一一年十二月)

鎌田道隆先生年譜・著作目録

佐々木克先生年譜・著作目録

論考

江戸時代の庶民の家出と伊勢参り

鎌田 道隆

福井藩の参勤交代に関する基礎的考察

印牧 信明

明治維新期の「市長」

小林 丈広

村の「貧困」「貧農」と日本近世史研究

木下 光生

古代アテナイにおける市民団の一体性と

平等性の確立

篠原 道法

―民主政成立の画期をめぐる―

史料紹介 西大寺食堂院跡出土文字資料と食堂院

浅野 啓介

北京国子監所在の元科拳碑をめぐる札記

森田 憲司

奈良大学所蔵「円満院関係文書」 酒井 雅規

― 邢鵬氏の報告を中心に―

奈良大学所蔵「常在寺田畠目録」 尾上 勇人

■ 第三〇号―奈良大学史学会三〇周年記念号―

(二〇二二年十二月)

論考 一九世紀初頭の村民世帯収支 木下 光生

― 大和国吉野郡田原村の事例から―

第一次大戦と日本の経済外交 森川 正則

― イギリスの輸入禁止措置をめぐる―

松永久秀被官に関する一考察 中川 貴皓

― 山口秀勝を中心に―

近世京都における寺院町の運営と捨子 林 宏俊

里耶秦簡における単独簡について 角谷 常子

北京の日本人教習と大阪の中国語教育 菅野 正

よみがえるヒュパティア 足立 広明

― ある「異」教女性聖人の実像をめぐる―

史料紹介 大和国宇陀郡角川村文書目録・解題

奈良大学文学部史学科木下光生研究室